



布施だより

《 みどりの移動市長室 》

2月10日(水)「みどりの移動市長室」が本校で開催されました。市からのご依頼文書には次のような開催趣旨が載っていました。

「みどりの移動市長室」は、市長が市内各地区へ出向き、さまざまな団体の活動や地域の取り組みを拝見しながら、市民の皆さんと直接、意見交換をさせていただいています。

平成10年度から行っており、平成26年度は6団体と行いました。

市内全ての各地区に出向き、地区の皆さまと意見交換を行う「市民会議」を毎年開催していますが、「みどりの移動市長室」は一つの団体と直接意見交換を行うため、ご意見を細かく把握するとともに、市長が活動場所に伺い、直接話し合いをさせていただくことにより、市政を身近に感じていただくことを目的としています。

市からは当日、加藤市長、市川企画制作部長、上杉教育課長、柄澤広聴課長、北島広聴課長補佐、徳武指導主事、寺島担当 それぞれの皆様のご来校になりました。学校からは橋爪駿介さん(生徒会長)・渡利康生さん(副会長)・石川瞳さん(タ)・宮原哉唯斗さん・(校風)緑川璃子さん(給食)・古島悠悟さん(整美)とコーディネーターの庄村T、校長Tによるタウンミーティングです。

テーマ〈ひとりひとりにとって居心地が良く魅力ある学校創りに向けて〉に沿った意見が交わされたひと時でした。以下は、当日の様子をまとめたパワーポイントからです。

長野市長さん(加藤さん)と 意見交換をしました!

2月10日(水)

篠ノ井西中学校(多目的室)にて
三役、校風委員長、給食委員長
整美委員長の6名で意見交換



テーマは・・・

ひとりひとりにとって 居心地が良く、魅力ある 学校創りに向けて

みなさんならどんな意見
を出しますか?



また、13日(土)の信濃毎日新聞にこの様子が報道されていました。記事をご紹介します。

～ ～ ～長野市は10日、加藤久雄市長が出向いて市民と意見交換する「みどりの移動市長室」を篠ノ井西中学校で開いた。同校の生徒会役員を務める2年生6人が来年度以降の学校運営をテーマに、市長と懇談した。生徒たちは、校内の雰囲気をよくするための考えをそれぞれ発表。古畠悠悟さんが「レクリエーションの時間を作るのはどうか」と提案すると、「時間をやりくりしないといけない」「掃除をしない日をつくる」といった意見が出た。加藤市長は「普段から汚さないよう心掛ければ、掃除の時間は短くなる」などと助言した。日頃から取り組んでいるアルミ缶の資源回収については「何に役立つのかをしっかりと説明して、やる気をだしてもらおう」との意見もあった。市長は「良いと思うことは思い切って自分からやり始めてほしい」と語り掛けていた。生徒会長の橋爪駿介さんは取材に、「今日話し合ったことを今後、他の役員達とも話し合いたい」と話した。～ ～ ～

生徒たちは、多くの大人たちに囲まれ緊張の中、屈託なく、おしゃべりをし、会話を楽しんでくれました。「活動の先に何があるのか!」そんな意味を一生懸命に見出そうとしてくれたひと時でした。またひとつ経験を重ねてくれました。

《 待っています。新入生の皆さん 》

前日2月9日(火)には、4月の新入学に向けての保護者説明会がありました。多くの皆様にご来校いただきありがとうございました。制服や通学カバン等の購入に続き、中学校入学に向けての諸準備や中学校の行事や学習、部活動やその他中学校生活全般についての説明があり、学校長からは以下のように中学校生活の紹介がありました。

～ ～ ～ 本日はご多用の中、保護者説明会にご出席いただきましてありがとうございます。さて、今日は公立高校の前期選抜の日です。85名の生徒が受検に行っています。まさに、今は進路実現のまっただ中で、3年生は受検のことで頭がいっぱいになっているときです。大きな不安や焦りの中で毎日を過ごしている3年生も多いと思います。そんな3年生ですが、先日とても心に残る生活記録がありました。これこそが西中で目指している姿だなどと思いました。

朝、雪が降りました。今年2回目の大雪でした。朝、教室にいとひとりの友だちが「雪かきに行こう」と言っていて、クラスの4,5人で玄関前の雪かきに行きました。8:00を過ぎていたので、たくさんの西中生がどんどん登校してきます。そんな中、登校してくるクラスの仲間は、登校してくるなり、荷物を下駄箱の近くに置いて雪かきを手伝ってくれました。



気がつけば4,5人でやっていた雪かきが14,5人での雪かきになっていました。登校してくる仲間は、みんな何も言わないで雪かきを手にとって手伝ってくれます。すごく気持ちがよかったです、何より嬉しかったです。「受験生だから」ではなく、1,2年生の手本となる最高学年として、西中の顔として、社会の一員として、こういうことは本当に大切だと改めて思いました。卒業まであと34日、クラスの仲間が困っていたり、大変そうにしていたら、クラスの仲間として、一緒に考えたり助け合ったりして、外は寒いけど、人の心の温もりで「温かいクラス」にしたいです。……

こういう生活記録でした。自分たちで考え、判断して行動する自主性。人のために尽くそうとする心とそれを実際の行動に移せる行動力。集団の中での自分の役割をしっかりと理解して、その立場にふさわしい、よりより自分の姿を求めていこうとする「あり方」。そして、仲間への深い思いやりの心。

こうした姿が、この進路実現のまっただ中に見られたことが本当に嬉しいことですし、生徒の確かな成長の証でもあると思いました。また、「雪かき」という日常の小さな活動ですが、そんな活動ですら、仲間への信頼や3年生としての誇りを一層深めていく活動になっている、こうした仲間関係が育っていること、これも生徒たちの大きな成長です。けれど、この生徒たちも1年生の時からこんなふうにしたわけではありません。私たちは、なぜ、生徒がここまで成長できたのか、そのことを全職員で大切にしていきたいと思っています。

今、全校で大切にしている「凡事徹底」の取り組みや、成就感や達成感を仲間とともに味わうことを大切にしたい、様々な行事や諸活動は、こうした生徒の成長に深く関わっているとことの一つであると考えています。こうしたことを今後も全職員で大切にしていきたいと思っています。

さて、中学校の3年間は、心も体も大きく成長する時です。言い換えると、子ども達が大きく変化する時です。この変化を、よりよい変化に導いていくのが私たちの務めであると思えます。時には壁になることも必要です。思春期を迎え、精神的に不安定になる生徒もいます。大人の干渉を嫌がり反抗的になる生徒もいます。こうした時、本校ではチーム支援を大切にしています。担任だけでなく複数の職員が生徒やご家庭と関わり、生徒にとってよりよい方向を目指して指導・支援を行っています。

私は今年度で本校3年目を迎えましたが、本校の生徒の3年間の成長ぶりを目の当たりして、私に勇気を与えてくれています。これからも、より良くなりたいという生徒の願いと可能性を本当に心から信じて、教育活動にあたっていきたいと思っています。 ～ ～ ～



各小学校での児童向けの学校説明会も随時開かれ、説明に出向いた先生方は小学生諸君から受けた愉快的な質問や受け答えの様子を、帰ってきた職員室で楽しそうに語り合っています。

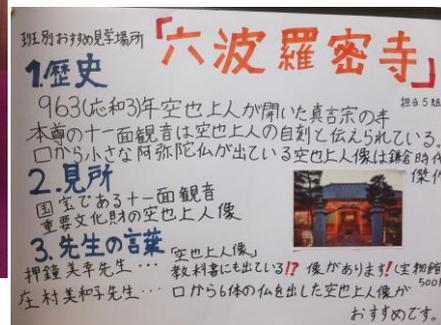
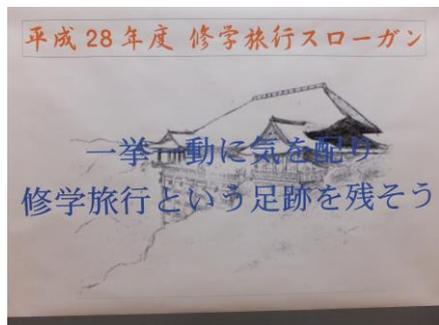
新入生234名の皆さんの入学を全校で待っています！

《 春待つ 息吹き 》



〈 スキー 〉 第36回 全日本スキー選手権大会
 フリースタイル競技モーグル
 7位 西田 麗夏 さん

～ ～ ～ ～ ～



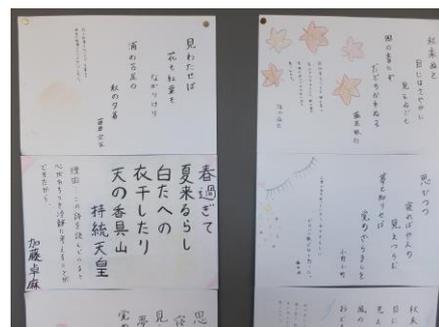
新しい春のスタートまで、20日余りとなった校舎には、幾多の学習の成果がてんこ盛りです。2階廊下には、4月15日からの修学旅行の学年スローガンが貼り出され、班別おすすめの見学地が先生方の推薦文と一緒にまとめられ、「春の古都へ行ってみたいっ！」という思いに強くさせてくれます。

弥生3月も近づくと、「ハテ？今年の干支は？」なんて気になりますが、ビーナスホールには「絵手紙展」に出品した作品が飾られ、ユニークで可愛らしい「お猿さん」と「一年の計」が新年の決意を思い返させてくれます。

そして南校舎の美術室前には「私の季節感～和菓子～」と題した紙粘土の作品が彩り豊かに品良く並べられ、思わずつまんで口にしたくなります。「うまそっ！」です。

国語の追究ではお気に入りの「万葉集」一句が、句にピッタリのイラストとお気に入りの理由が添えられ、31音（みそひともじ）の調べに味わいをもたせてくれます。

同じ廊下には「マイクロファイバークリーナー（エコ雑巾）とキーホルダー」がセットで飾られ、ひとりひとりの個性とアイデアが滲み出るコラボ作品になっています。



・・・1年間の追究の成果と4月への助走が感じられるアカデミックな作品群です。

